



N.Inaba

THE NIKKAN SPORTS SHO SHINZAN KINEN

第59回 日刊スポーツ賞 シンザン記念 (GⅢ)

1着 2着 3着 4着 5着
本賞 41,000,000円 16,000,000円 10,000,000円 6,200,000円 4,100,000円
付加賞 595,000円 170,000円 85,000円



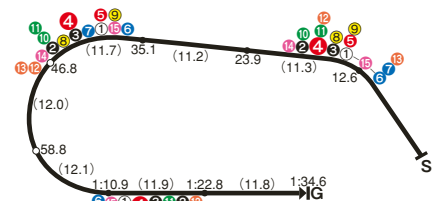
レース映像は
コチラでご覧
いただけます。

3歳、除未出走馬および未勝利馬
負担重量 馬齢重量

2025.1.13 中京 晴・良 芝1600m (国産) (特指)

着順	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム (管差)	コーナー 通過順位	上り (600m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	④	リラエンブレム	牡3	57	浜中 俊	1:34.6	4-8-9	35.1	476(+6)	4.7③	武幸四郎(栗東)	111
2	⑧	アルテヴェローチェ	牡3	57	川田将雅	2½	7-7-6	35.7	462(-10)	3.0①	須貝尚介(栗東)	106
3	⑮	ウォーターガーベラ	牡3	55	団野大成	1½	12-13-13	35.3	446(±0)	75.5⑨	河内 洋(栗東)	99
4	①	マイネルチケッ	牡3	57	戸崎圭太	ハナ	9-11-10	35.5	468(+12)	4.5②	宮 徹(栗東)	103
5	②	タイセイカレント	牡3	57	武 豊	1¼	2-4-3	36.3	480(-6)	8.1④	矢作芳人(栗東)	
6	⑤	ジーティーマン	牡3	57	藤岡佑介	2½	9-11-10	36.1	488(+2)	8.8⑤	小栗 実(栗東)	
7	③	アクルクス	牡3	57	幸 英明	½	7-8-6	36.6	472(±0)	176.9⑩	池添 学(栗東)	
8	⑫	ラージギャラリー	牡3	55	坂井瑠星	1	4-2-2	37.3	470(±0)	51.4⑧	高橋 亮(栗東)	
9	⑦	オンザムーブ	牡3	57	M.デムーロ	クビ	13-10-10	36.5	502(-2)	68.3⑩	矢作芳人(栗東)	
10	⑩	リカントロボ	牡3	57	菱田裕二	1	9-13-14	36.1	474(+14)	64.1⑪	梅田智之(栗東)	
11	⑩	ゴールデンカイト	牡3	57	A.ルメール	½	2-4-6	37.0	476(+4)	46.2⑨	中内祐正(栗東)	
12	⑮	レーヴブリリアント	牡3	57	松山弘平	1¼	13-1-1	37.8	448(+2)	14.9⑥	田中博康(美浦)	
13	⑥	カラヴァジェスティ	牡3	57	池添謙一	1¼	13-15-14	36.8	464(+12)	23.2⑦	奥村 武(美浦)	
14	⑪	メイショウツヨキ	牡3	57	北村友一	8	4-4-5	38.9	472(+14)	73.1⑩	飯田祐史(栗東)	
15	⑭	アーリントンロウ	牡3	57	西村淳也	¾	1-3-3	39.1	510(+10)	24.2⑧	松下武士(栗東)	

単勝④470円(3¼%) 複勝④210円(3¼%) ⑧160円(1¼%) ⑮890円(11¼%) 枠連③-⑤580円(1¼%)
馬連④-⑧950円(2¼%) ワイド④-⑧490円(3¼%) ④-⑮5,240円(49¼%) ⑧-⑮3,780円(42¼%)
馬単④-⑧1,790円(4¼%) 3連複④-⑧⑮22,830円(72¼%) 3連単④-⑧⑮75,000円(240¼%)



通過タイム： 600m 800m 1000m 上り： 800m 600m
35.1 - 46.8 - 58.8 47.8 - 35.8

アラカルト

- ・浜中俊騎手はロジクライで制した16年に続くシンザン記念5勝目。JRA重賞は通算58勝目
- ・武幸四郎調教師はライトクオンタムで制した23年に続くシンザン記念2勝目。JRA重賞は通算5勝目
- ・ギズナ産駒はJRA重賞通算38勝目
- ・ラージギャラリーの岩田望来騎手は前日の中山競馬第10競走での落馬負傷のため坂井瑠星騎手に変更
- ・出走取消馬 ボッドドンナー(疾病(右前肢跛行)のため)
- ・非当選馬 3頭(グラフィティアート、マイエレメント、ミニトランザット)

リラエンブレム *Lila Emblem*

牡 黒鹿毛 2022.3.27生
北海道安平町 ノーザンファーム生産
馬主・株Gリビエール・レーシング 栗東・武幸四郎厩舎
馬名意味・紫(独)+紋章

デルフィニアIIIRE系 F1-u

キズナ 青鹿毛 2010	ディーブインバウト 鹿毛 2002	サンデーサイレンスUSA ウインドインハーヘアIRE
	キャットクイルCAN 鹿毛 1990	Storm Cat Pacific Princess
デルフィニアIIIRE Delphinia 鹿毛 2016	Galileo 鹿毛 1998	Sadler's Wells Urban Sea
	Again 鹿毛 2006	Danehill Dancer Cumbres

5代までのインブリード：Northern Dancer M4×S5

INTERVIEW

山内大輔 調教主任(ノーザンファーム早来)

瞬発力のある走りに驚きました

乗り慣らしの頃の印象からすると、ここまで馬体が成長するとは思っていませんでした。なかなか緩さが抜けきらなかった中で、移動がいい刺激となったのか、ノーザンファームしがらきや武幸四郎厩舎では、日に日に動きの良さが評価されていきました。内容もさることながら、荒れた馬場を気にすることなく瞬発力のある走りを見せたのには驚きました。

S.Setoguchi



ラスト3つの内訳は12秒―11秒9―11秒8。いわゆる「加速ラップ」が刻まれるなか、突き抜けた勝利は高く評価できる。昨年10月の新馬戦京都に続き、マイルの舞台で連勝を飾った本馬だが、父キズナ、母の父ガリレオなら距離の守備範囲も広いはず。桜花賞候補が名乗りをあげた前日のフェアリースと同様、牡馬のクラシックロードにも強力な新星が現れた。

父キズナ

北海道新冠町 株式会社ノースヒルズ生産 中央、仏14戦7勝(日本ダービー^{G1}、大阪杯^{G1}、京都新聞杯^{G1}、ニエル賞・仏^{G2}、毎日杯^{G1})、最優秀3歳牡馬、16年から供用。24年日本リーディングサイヤー、23、24年日本2歳リーディングサイヤー(代表産駒)ジャスティンミラノ(皐月賞^{G1}、共同通信杯^{G1})、ソングライン(安田記念^{G1}2回、ヴィクトリアマイル^{G1}、富士S^{G1})、アカイト(エリザベス女王杯^{G1})、ディーブバンド(阪神大賞典^{G1}2回、フォワ賞・仏^{G2}、京都新聞杯^{G1}、天皇賞(春)^{G1}2着3回、有馬記念^{G1}2着)、パスラットレオン(ニュージランドトロフィー^{G1}、ゴドルフィンマイル・首^{G2})、シックスセンス(毎日王冠^{G1}、スプリングS^{G1})、マルタースディオサ(チューリップ賞^{G1}、紫苑S^{G1})、クイーンズウォーク(ローズS^{G1}、クイーンC^{G1})、アスクワイルドモア(京都新聞杯^{G1})、ジュンテイク(京都新聞杯^{G1})、サンライズジバング(不来方賞^I、みやこS^{G1})、他に重賞勝ち馬多数

母デルフィニアIIIRE

英、仏、愛11戦2勝(リヴァーエデンフィリーズS・英^I、英チャンピオンズフィリーズ&メアズS^{G1}2着、ロワイヤリュウ賞・仏^{G1}2着、パークヒルS・英^{G2}2着、ギヴサンクスS・愛^{G3}3着、ブルーウインドS・愛^{G3}3着)、20年輸入ベストミーエヴァー(21 牝父No Nay Never)中央5戦1勝(スイートピーS・L3着)⑨

リラエンブレム 本馬(22 牡父キズナ)中央2戦2勝(シンザン記念^{G1})

獲得総賞金48,795,000円

(23 牡父キタサンブラック)

(24 不受胎)

祖母アゲイン Again

アイルランド産 愛、英、仏4勝(愛1000ギニー^{G1}、モイグレアスタッドS・愛^{G1}、デビュタントS・愛^{G2}、メイトロンS・愛^{G1}3着)

インディアンマハラジャ Indian Maharaja(11 牝父Galileo)愛、英、北米2勝(エルグランセニョールS・愛^L)

フォーリングリーヴズ Falling Leaves(14 牝父Galileo)愛0勝、オートムスターライト Autumn Starlight(カマルゴ賞・仏^L、ベルトランドトラゴン賞・仏^{G3}2着)の母

デラノルーズベルト Delano Roosevelt(15 牝父Galileo)愛、英1勝(ベレスフォードS・愛^{G2}2着、愛ダービートライアルS^{G3}2着、パリサックスS・愛^{G3}2着、ゴールデンフリースS・愛^{G3}3着)

デルフィニアIIIRE(16 前出)

牡馬クラシックロードに強力な新星現る

2年前のライトクオインタム、昨年のノーブルロジャーと、新馬戦を勝ち上がったばかりの馬が連続で勝利を飾ってきたシンザン記念だが、今年の主役と目されたのはG1好走歴も持つ実績馬。サウジアラビアロイヤルCの覇者で、朝日杯フューチュリティSでも5着に食い込んだアルテヴェエローチエが頭ひとつ抜けた支持を集め、サウジアラビアロイヤルC3着、京王杯2歳S2着と、タイトルの目前で足踏みを重ねてきたマイネルチケッツがこれに続いた。しかし鮮やかな強襲を決めたのは3番人気のリラエンブレム。1戦1勝の新星が実績上位の面々を一蹴し、飛躍への一歩を踏み出した。

外枠から好スタートを切ったアーリントンロウがまずは飛び出したものの、向正面の周回コースに入るとラージギヤラーが主導権を奪取。さらに3コーナーでは掛かり気味に進出してきたレーヴブリリアントが前に並びかけ、緩みのない流れでレースは進む。序盤は好位につけたリラエンブレムの浜中俊騎手は、馬と呼吸を合わせながら少し位置を下げ、中国を追走。マイネルチケッツとアルテヴェエローチエは直後の内外につけて仕掛けのタイミングを窺った。

4コーナーに差し掛かるとアルテヴェエローチエが馬群の外を回りながら徐々に進出を開始。これを格好の目標に上昇、前との差を詰めた浜中騎手は直線に向くと相手の内を突いて加速を促す。鞍上の指示にリラエンブレムも鋭く反応。残り200m地点で先頭に立ったアルテヴェエローチエを一気に抜き去り、最後は2馬身^{1/2}差をつけてゴールに飛び込んだ。